

奈良	都道府県	国立・ <u>公立</u> ・私立	(フリガナ)
学校名 T小学校		担当者氏名 T先生	

### ◆ 活動内容（学年・単元、ねらい、実践の様子など）

[学年および単元]

第1学年：20よりおおきいかず，第1学年・たしざんとひきざん

第5学年：奇数と偶数

[ねらい]

第1学年

学力低位の状況にある子ども，とりわけ数の順序や並び方が数感覚をもって捉えることが難しい子どもたちに，具体物の操作活動を通して数量関係や数のしくみを理解し，加減計算ができるようにする。

第5学年

低学年での学習を振り返り，「2とび」で玉を並べたり数えたりし，数列を視覚的に理解し奇数と偶数を理解する。

[実践の様子]

第1学年

- ・指導者が，大型の百玉そろばんを用いて提示すると合わせて，100までの数をそのまま数えたり，「2飛び」や「5飛び」，「10飛び」で数えたりして活用している。特に授業の始めの5分間で継続して活用して，基礎学力の定着をめざしている。
- ・加減計算では，文章の読みに合わせて，「計算ブロック」の活用と合わせて，半具体物の操作を通しての数感覚を高める教具として活用している。

第5学年

- ・奇数と偶数の学習で，指導者が指示する数を百玉そろばんの数えたり，指示する数を並べたりする活動を通して，奇数と偶数の理解を深めている。また，偶数の数は二つに分けることができ，奇数の数は分けることができないということについても，百玉そろばんの玉を分ける操作を行って理解を深めている。

### ◆ 成果

本校においては，学力実態が厳しい状況にある子どもが多い。その背景は，乳幼児期からの子育ての実態を主たる原因は，言語経験や数体験が乏しいことにある。このような状況にある子どもたちには，具体物操作→半具体物操作→（半抽象物操作）→抽象化という過程を丁寧に指導する必要がある。

百玉そろばんは，この抽象化の過程の中で，「算数ブロック」と併用して活用している。百玉そろばんは，準備と片付けが「算数ブロック」よりも容易なので，低学年の学習で継続的に学習に活用することによって，数感覚を定着させることに役立っている。

高学年における実践では，低学年における学習との連続性を確保することもあるが，むしろ半具体物を操作することを通して，奇数と偶数の特性に子どもたち自身が気づいていく過程を大切にしている。

数を二つに分けることができるかどうかという操作によって，奇数と偶数の特性に子どもたちは自ら気づくことができた。

### ◆ 実践ポイント

低学年では，何度も繰り返して操作する。そのことで数感覚が身に付く。

高学年では，ある程度自由に操作させることによって，「気づき」を促す。

### ◆ その他（改善点、気付いたことなど）

特記事項なし